

内視鏡外科における縫合・結紮法 —トレーニングからアドバンスド・テクニックへ

黒川良望 監修

安藤健二郎 著

<書評者> 白石憲男 大分大学助教授・第1外科

1990年、わが国に腹腔鏡下胆嚢摘出術が導入されて以来、内視鏡下手術は急速に普及し、その適応が拡大されてきた。これは、体に優しい「低侵襲手術」が、国民の福祉に貢献すると期待されているからである。しかしながら、その手術手技は従来の開腹手術と異なり、モニター下の鉗子操作であるため、外科医のトレーニングが必要である。

内視鏡下手術操作の中で最もトレーニングが必要な操作の一つに縫合や結紮操作が挙げられる。そのため、日本内視鏡外科学会の技術認定医制度においても縫合・結紮操作の提示が必須の要件とされている。内視鏡外科における縫合と結紮法のコツが理論的に示された本書は、そのような時代にマッ

チしたテキストブックと言える。

本書の主旨は、「序」に示されているように「どうすれば内視鏡下での手縫い縫合・結紮がスムーズにできるようになるか」ということである。

本書の構成は、総論と各論からなり、バランスのとれた内容になっている。総論においては、縫合・結紮に必要な道具の紹介にはじまり、その理論と基本操作、著者が考える4つの基本手技、その練習法について述べている。特に鉗子操作による結紮・縫合の三大要素として手術対象と持針器との①方向、②角度、③距離を挙げ、基本手技の手順とコツをていねいに解説している。各論においては、縫合・結紮手技が重要な9つの術式をとりあげ、その具体的な手

技を著者の経験にもとづき記述している。いずれもわかりやすいイラストと説得力のある記述で解説されている。さらに、それぞれの章ごとにKnack & Pitfallsが記載されており、実際に手技を行う際のアドバイスとして有用である。

このように、本書は内視鏡外科における縫合・吻合法のガイドとして有用な書物である。全編にわたり、記述は実にていねいで思いやりに満ちたものである。行間に安藤先生のお人柄がにじみでており、読んだ後には心地よい満足感が得られる。本書を手にした読者は、必ずやスムーズな縫合・結紮法を習得できるにちがいない。

初学者のみならず、日常診療において内視鏡外科を実践している外科医たちにぜひ読んでいただきたい書物である。

●B5 頁192 2004年
定価 7,875円
(本体 7,500円＋税5%)
[ISBN4-260-12259-2]
医学書院刊